

## 第68回大会準備状況

教育史学会第68回大会は、2024年9月28日（土）、29日（日）の日程で、東京学芸大学を会場に対面開催を予定しております。大会準備委員会では以下のようなシンポジウムを企画いたします。研究発表及びコロキウムの申込み等については、本会報と同封の大会開催案内をご覧ください。

\*\*\*\*\*

### 《シンポジウム》

「教育史研究における教育実践史再考—意義と課題、そして可能性—」をテーマとして、9月28日（土）の午後（14時20分～17時30分）に下記の要領でシンポジウムを開催します。

報告者：渡邊 隆信（神戸大学）  
佐藤 英二（明治大学）  
山下 達也（明治大学）  
指定討論者：前田 一男（立教大学名誉教授）  
司会者：鈴木 明哲（東京学芸大学）  
宮本健市郎（関西学院大学）

### 《趣旨》

コロナ禍を経た学校教育の現場は一人一台のタブレット端末の導入やオンライン授業の実施など、その実践形態を大きく変えてきている。今、こうしている間も実に多様な教育実践がこの地球上に生まれ続けている。

もとより教育という営みは学校空間に限らず家庭、地域、職域などの様々な場面において生き活きと行われてきたはずであり、それはまた近代以降という時代に特定されることもない。また教育者と被教育者との間でなされてきた営みだけでなく、独学や自学自習も含めることができるかも知れない。

だが、これまで本学会のシンポジウムで教育実践史が真正面から議論されたことはなく、また論文や口頭報告を眺めてみても制度・政策史や学説史とその周辺が多数を占め、教育実践史研究は敬遠され、等閑視されてきた感がある。本学会においても教育実践史は大正新教育研究の多数を占めていたことか

らもわかるようにある特定の時代や教科教育史、教育方法史などにおいてなされてきた仕事であった。あるいは地方教育史や学校史の中にあつた。一方、学校教育中心史観が衰退し始めたと言われる2000年代以降、教育実践史は主として教育社会史に居場所を得ているかのようである。

教育実践史という「小さな（マイクロな）教育史」の成果をせっせと積み上げても、通史や全体像の叙述にはさほど影響を及ぼさないためであろうか。あるいは教育史学における学術的な価値付けの低さであろうか。それとも膨大な史料の選択と収集およびその解釈、研究方法や叙述方法の難しさゆえであろうか。そもそも過去の教育実践は無数、無限に存在し、制度や政策、学説の比ではなく、それらすべてを明らかにすることは到底不可能であり、研究領域の拡散やかみ合わない議論を招来しかねないという問題性も指摘できる。加えて過去の教育実践には、進化や発展というポジティブな側面だけでなく、できることならば知りたくないネガティブな側面もあるだろう。

必ずしも本学会の主流とは言えない教育実践史研究について、その意義や価値、課題や限界、さらには可能性などを議論し深めてみることは、私たち教育史研究者の視野を広げてくれることのみならず、本学会のこれまでとこれからを考える契機にもなるであろう。さらに一般化して言うならば、「どのような教育が行われていたのか」というマイクロで身近な教育史は教育史研究者だけではなく、広く世の中が知りたいと欲しているはずである。

第68回大会準備委員会

## 機関誌編集委員会からの報告

機関誌編集委員長 吉川 卓治

2024年5月4日に開催された第4回機関誌編集委員会において、『日本の教育史学』第67集に掲載する論文を下記の通り決定しましたので、お知らせします。5編とやや少なめなのが残念ですが、質の高いものと確信しています。

- (1) 蓑毛 智樹 (神戸大学大学院学生/日本学術振興会特別研究員 DC)  
「文検修身科」試験問題に見る国民道徳論の研究―試験委員・井上哲次郎を中心に―
- (2) 難波 知希 (東京大学大学院学生/日本学術振興会特別研究員 DC)  
大正期の宮城県における娯楽をめぐる校外生活統制の台頭―中等学校の教師による「諸興行場」への視察をめぐって―
- (3) 金井 徹 (東北福祉大学)  
務台理作における日本文化論の検討―西田幾多郎(1940)『日本文化の問題』に関する講述録を手がかりに―
- (4) 張 彩薇 (京都大学大学院学生)  
日本植民地期台湾における西螺公学校と地域社会―「田舎ニ不相応ナル向学心」の由来と行方―
- (5) 斉藤仁一郎 (東海大学)  
1930年代米国ヴァージニア州における改訂版コースオブスタディの黒人学校への導入

今回の投稿論文数は17編(日本13編、東洋2編、西洋2編)でした。投稿規程に照らして1本を不受理とし、16編を審査対象といたしました。

第62集より論文審査手続が変更になり、今回は変更後6回目の審査でした。審査は2段階で行われました。第1段階審査では、受理した投稿論文について、採択、修正のうえ再審査、不採択、を決定しました。まず、すべての投稿論文について、二人の審査委員が査読し、詳細な審査票を作成したうえで、それをすべての編集委員が共有しました。次に、日本、東洋、西洋という各領域の編集委員が、領域ごとの投稿論文をあらためて審査しました。そこでは平均6点以上を採択の基準として、10点満点の評点を付けました。第65集から導入された新たな手続きに従い、6点に満たなくても領域ごとに投稿論文数の3分の1以上は第2段階審査に送られました。同じく第65集以来の手続きにより、第1段階審査で不採択となったものにつきましても編集委員会のコメントをお送りしました。

第2段階審査の対象となりました投稿論文については、編集委員会が修正意見を作成し、投稿者にはそれを参考として修正のうえ再投稿いただきました。編集委員会は、修正された論文について第2段階審査を行い、最終的な採否を決定しました。

編集委員会は、丁寧な審査をし、質のよい論文をできるだけ多く掲載したいと思っています。現在の審査手順が万全というわけではありません。修正にかかる時間が短いことなど、改善すべき事項は少なくありません。今後も編集委員会はもとより、理事会においても検討し、改善していきたいと思えます。会員諸氏におかれましても、ご意見等がありましたら、編集委員会あるいは学会事務局にお寄せいただければ、ありがたく存じます。

**\* 図書**

- 松本和寿『子ども観と評価でみる学校教育史—経験主義教育に学ぶ子どもはどう評価されたか』風間書房 2023/11/11
- 愛知教育大学『愛知教育大学創基150周年記念誌』愛知教育大学 2023/11/19
- クラウス＝ペーター・ホルン 著、鈴木篤 訳『ドイツにおける教育学の発展史—二十世紀ドイツの教育科学』九州大学出版会 2023/12/10
- 高嶋 航・佐々木浩雄 編著『満州スポーツ史—帝国日本と東アジアスポーツ交流圏の形成』青弓社 2024/1/23
- 寺崎昌男『大学沿革史編纂の手引き』野間教育研究所 2024/3/15

**\* 紀要・ニューズレターなど**

- 『玉川大学教育博物館 館報』第21号 玉川大学教育博物館 2023/8/31
- 『盲教育史百触の旅—盲史研10周年記念誌』桜雲会点字出版部 2023/10/21
- 『ディルタイ研究』第34号 日本ディルタイ協会 2023/11/18
- 『大学教育学会史』第45巻第2号 大学教育学会 2023/12/27
- 『大学教育学会ニュースレター』No. 125 大学教育学会 2024/2/9
- 『立教学院史研究』第20号 立教大学 立教学院史資料センター 2024/2/29
- 教育情報回路としての教育会に関する総合的研究会（研究代表 須田将司）『近現代日本における「学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築」の総合的研究』報告書Ⅱ2021～2024年度科学研究費補助金（基盤研究（B））教育情報回路としての教育会に関する総合的研究会 2024/3/20
- 『教育三重史料研究』第3集 教育三重史料研究会 2024/3
- 『筑波大学教育学系論集』第48巻第1号 筑波大学人間系教育学域 2023/10
- 『筑波大学教育学系論集』第48巻第2号 筑波大学人間系教育学域 2024/3

## 事務局からのお知らせ

### 1. 理事の辞任と後任の理事の選出について

高橋陽一理事より辞意の申し出があり、2024年3月の理事会で承認されました。なお、後任の理事には、「教育史学会会則」第11条第2項により、田中智子会員（京都大学）が就任されました。任期は、高橋理事の残りの任期となります。以上、お知らせいたします。

### 2. 書評委員の選出について

2024年3月開催の理事会において、『日本の教育史学』第68集の書評委員を選出いたしました。選出された委員は、以下の通りです。

#### ■ 第68集書評委員

- 日本 ○荒井 明夫（大東文化大学）  
    奈須 恵子（立教大学）  
    吉川 卓治（名古屋大学）
- 東洋 一見真理子（お茶の水女子大学研究員）  
    沢田 哲（日本福祉大学客員教授）
- 西洋 小玉 亮子（お茶の水女子大学）  
    佐久間亜紀（慶應義塾大学）

※ ○は委員長

### 3. 第5回教育史学会若手会員海外派遣プログラムによる会員派遣の決定について

先に募集した教育史学会若手会員プログラムによる若手会員派遣について、海外交流委員会の選考により、江口怜会員に決定しましたことをお知らせします。

### 4. 事務局嘱託職員の交代について

上智大学に事務局が設置されて以来、長らく事務局の運営にご尽力いただいた黒後真樹さんが、ご本人のご事情により3月末日で事務局嘱託職員をお辞めになりました。これまでのご尽力について、御礼を申し上げます。なお、黒後さんの後任の事務局嘱託職員を、王暁娟氏に委嘱することを2024年3月の理事会で決定したことをお知らせいたします。

### 5. 会費納入のお願い

2023年9月より、第67回大会年度が開始されております。5月10日時点で、今年度および過年度会費をお支払いいただいていない会員には、振込用紙を同封させていただきました。速やかな会費納入にご協力いただきますようお願いいたします。自動引き落としをご希望の方は、必要書類をお送りしますので、事務局までお知らせください。自動引き落としの場合でも、領収書を発行しますので、ご入用の場合は事務局までご一報ください。

### 6. 会員登録の変更について

住所や所属が変更になった場合は、「会員登録内容変更届」（学会ホームページの「事務局からのお知らせ」をクリック）に必要な事項を記入し、ご提出ください。メールにても受け付けております。

2024年5月  
学会事務局 小野 雅章

教育史学会 会報 No. 135 2024年5月25日

編集・発行 教育史学会事務局 小野 雅章  
〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40  
日本大学文理学部教育学科  
小野雅章研究室 気付  
電話 03 (5317) 9714  
電子メール mail@kyouikushigakkai.jp  
郵便振替口座 00140-0-552760 教育史学会事務局

印刷 城島印刷株式会社